

協議会だより

提言「学童保育の充実で子どもたちに豊かな放課後を」

二〇二一年一〇月一七日、全国学童保育連絡協議会（以下、

全国連協）は、「学童保育の充実で子どもたちに豊かな放課後を」を公的責任で学童保育の施策拡充を求める提言をまとめた。この提言は、厚生労働省に届けたほか、衆議院選挙の前に、国会に議席を持つすべての政党・会派に送付しました。

提言は、大きく二点にまとめられています。

1 国や市町村の基準を順守して、「放課後児童クラブ運営指針」にもとづく質の確保を

◆子どもの命と安全を守るうえで欠かせない国の「放課後児童

施責任があることを明確にする児童福祉法に改定することを求めます。

◆「学童保育の役割」を明確にし「学童保育の必要性」および「待機児童」の定義を明確にすることを求めます。

◆子どもの安全・安心な保育を安定的に継続して運営するために、事業の根幹を担う専門性を持った職員への専任・常勤・複数体制」を実現することを求めます。

* * *

この提言では、補足説明として、学童保育の現状と課題を歴史的な経過も含めて記しました。その内容は、「児童福祉法での位置づけ」「事業の質を底上げした国の基準と「放課後児童クラブ運営指針」「市町村・学童保育現場における地域格差」「全児童対策事業」への置き換えの懸念」「指導員の処遇改善が進まず、定着しない」「量

の拡充と質の向上を確かなものとするための制度改革の必要性」「事業の根幹を担う専門性を持った職員への専任・常勤・複数体制の実現を」の七項目です。

一〇月八日には、岸田文雄首相による所信表明演説が行われました。経済政策については「成長戦略」「分配戦略」が示されており、「分配戦略」において、学童保育についてつぎのようにふれています。

「第二の柱は、中間層の拡大、そして少子化対策です。（中略）保育の受け皿整備、幼保小連携の強化、学童保育制度の拡充や利用環境の整備など、子育て支援を促進します。これも目録での行政の在り方を検討し、実現していきます。第三の柱は、看護、介護、保育などの現場で働いている方々の収入を増やして（くわく）です」

ただし、ここで言う「学童保育」が、児童福祉法に位置づけ

られ、国や自治体の基準にもとづいて運営されるもので、「一定水準の質の確保及びその向上を図る」ために国が示した「放課後児童クラブ運営指針」にもとづいた取り組みが進められている。「放課後児童健全育成事業」を指すのかが否か、また、「拡充」と言った場合に、これまで私たちがめざしてきた方向への「拡充」なのか、たしかめることが必要です。

地域で政党・議員の皆さんに学童保育への理解を深めていただくにあたっては、基本的なことも含め、全国的な課題と地域特性・情報について、ていねいな説明を準備することが大切です。この提言をぜひ活用くださう。

全国学童保育連絡協議会 定期総会を開催しました

二〇二二年一〇月一七日、

全国連協は東京都文京区内で二〇二一年度（二〇二一年一〇月からの一年間）の定期総会を開催しました。当日は、インターネットを介して、全国八〇地点以上を結びました。

総会では、二〇二一年度の活動報告、決算報告が行われ、会計監査報告を受けた後、いづれも確認されました。つづいて、「学童保育をめぐる現状と課題」を確認し、今年度の活動方針（本誌二〇二二年一月号に掲載予定）と予算が承認されました。

総会で選出された今年度の全国連協役員はつぎのとおりです。

◆会長 西田隆良（埼玉・保護者・再）

◆副会長 出射雅子（京都・保護者・再）、小野さとみ（三多摩・指導員・再）、角野いずみ（岡山・指導員・再）、嘉村祐之（岩手・指導員・再）、

賀屋哲男（愛知・専従職員・再）、川崎ゆめき（大阪・指導員・再）、木村美登里（神奈川・指導員・再）、佐藤正美（埼玉・指導員・再）、重木奈穂美（石川・指導員・再）、戸塚丈夫（三多摩・保護者・再）、中野明彦（奈良・保護者・再）、平野良徳（兵庫・保護者・再）、山崎善明（神奈川・保護者・再）（五十音順）

◆事務局長 高橋誠（東京・指導員・再）

◆事務局次長 佐藤愛子（職員・再）、千葉智生（職員・再）

第56回全国学童保育研究 集会を開催しました

全国学童保育研究集会（以下、全国研。主催・全国学童保育連絡協議会）は、保護者、指導員、運営者や自治体職員、研究者の方々が一堂に会し、一年に一回、二日間にわたって交流

し、学びあう研究集会です。全国研で得られる「元気の素」が、学童保育の内容や施策を改善する力の源にもなってきました。

二〇二二年一〇月に山形で開催を予定していた第55回全国研は、「新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、やむなく中止としました。二〇二二年開催の第56回の集会は感染拡大防止の観点からオンラインを活用して開催。二〇二二年一〇月二三日は全体会、二四日は「全国研ならではの魅力のひとつである多様なテーマの分科会を実施し、全国各地から四六〇〇名を超える人々が参加し、大いに学び、語りあいました。

開催にあたっては、全国各地の学童保育連絡協議会関係者が企画・準備に携わり、当日も運営を担いました。二日間の模様は、本誌二〇二二年二月号に掲載予定です。